

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都市】

学校名【京都市立洛西中学校】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生 4クラス 72名 1組（24名）、2組（22名）、3組（24名）、育成学級（2名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動 <small>次の5つの中から選択しOをつけてください【複数選択可】</small></p> <p>① 教科名（総合 人権学習）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	障がいに対する正しい知識を学び、障がい者スポーツに携わる方の講演、車いす体験（車いすバスケット、車いすリレー）を通して、障がい者と健常者とが共生していく姿勢を育てる。
5 取組内容	<p>第1 限目… 3年間の人権問題学習を進めていく上で必要となる知識を学び、人権感覚の素地を養う。「人権」とは何か、なぜ学ぶ必要があるのか、人権問題にはどのようなものがあるのか、などを考える。</p> <p>第2 限目… 「偏見」は誰の中にもあり、悪意なくもってしまうことがある。これを、活動を通して体感する。差別は先入観や偏見から生まれることを理解する。また、これまでの学習を通して、社会や自分の中に存在する偏見や差別意識に気づき、望ましい人間関係のあり方を考察し、自分がどう行動できるのかを考えることができるようになる。</p> <p>第3・4 限目… パラリンピック北京大会日本代表コーチ 坂野晴男様を講師に迎え、「障がい者スポーツ」の講演・「車いすバスケットボール」の体験を通して、障がい者と交流を図り、障がい者も健常者も同じ人間として共生していく姿勢を育む。</p>
6 主な成果	発達に障がいがある生徒がいる学年で、人権問題とは何か普段の学校生活で考えることができる場面も見られる一方で、自分とは違う考えを持つ人を認められない、考えが違うと認め合うこと

	<p>ができない場面もあり、自分勝手な言動や行動で、相手を傷付けてしまうこともあった。</p> <p>人権問題学習を通して相手の立場になり物事を考えたことで、互いを思いやることの大切さや、様々な違いを持つ人との共生を目指す姿勢が育まれた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>校区には視覚障がい者施設があるなど地域に福祉が根付いている。そのことと関連付け、幅広く人権について考えさせ、障害のある人に対する偏見に気付かせるとともに、様々な違いを持つ人と共生するためには何が必要かを考えさせた。</p>
8 主な課題等	<p>本事業を活用し、今回の取組を行った。今後もこの取組を継続したいと考えているが、本事業がなくなった場合の講師謝礼等の出どころや取組内容について、校内で検討する必要がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>引き続き来年度以降も実施する予定である。</p>